

読み書きに困難を抱えている方を支えるということ

当事者との対談から

長野市立川中島小学校 教諭 山崎幸子

東京医療福祉大学 非常勤講師

令和3年12月5日

楽しいこと、好きなことは続けることができる

- 調理師専門学校に通うA子さん

小学生の頃から料理を作ることが好きだった
家族のために茶碗蒸しを作り喜ばれた

A子さんとの出会い

- A子さん 小学校4年生 通常学級在籍
読み書きに困っている子どもがいるので、みてほしいと担任から依頼を受ける
- 当時の山崎の立場 外国籍の児童のための日本語教室担当
比較的時間に余裕があったため、特別支援対応の児童も受け入れることにした

デイジーは「希望」



デイジーを使用して 振り返ると

- ・小学校ではよかった。中学校ではあまり理解されない。

周りに理解されない現状 社会的障壁

- ・先生に理解してもらえなかった そのため学校では使えなくなってしまった
「なんでデイジーはいいんですか？」先生に聞かれても説明できなかった
「読みやすい、いい」
「何ですか？」 先生に聞かれても説明できなかった
- ・原級で使うのはもっと難しい
「何で使うんですか？」って周りの友達に聞かれたとき答えられない

理由は 自分にとっていいから

当時を振り返って(中学3年時)

- ・デジターは読んでもらおうと内容が理解できる
- ・ハイライトもいい
周りの人に説明するのは面倒だけど
- ・字を大きくするのがいい 大きい方が読みやすい
- ・図書館の本もデジター化されていればよかった
- ・さし絵がない本はわからない

- ・自分のことを理解しているといい 早い時期に理解したかった
- ・読みが苦手だということがわかったけどできないことばかりじゃない
- ・生活はしっかりしている しっかりもの
- ・先生、生徒の順番に理解して
- ・デイジーを使っている先生には気持ちを言える わかってもらえる
- ・担任の先生はみんなデイジーを知ってほしい

小学校1年生は、自分ではわからないから
小さいうちにみつけてほしい 苦労するから

保護者のインタビュー（中学2年生当時）

- ・ デイジーで読むとすらすら読める
- ・ 学校で使えていないので、自宅で使用している
- ・ 読みたい本が読めれば自信になると思う
- ・ 中学2年生から笑わなくなってしまった 夏くらいから 学校のストレス
- ・ 音が混ざってわからなくなってしまう 先生の声と友達の声
- ・ 自分で思っているもうまく言葉に出すことができない
- ・ 読み書きの困難さがある 聞き間違いがある
- ・ デイジーで繰り返し読むと効果がある

- ・実践的なことは得意 体で覚える
- ・手先が器用 消しゴム彫刻
- ・相手が何を感じているか映像から読み取る 空気が読める子
- ・最初の文章を読むというところが苦手 心情を読むのはできる
- ・ゆっくり教えてもらうとわかる
- ・ちょっと歪んで見えるのかもしいない
- ・デイジーの速さや間は自分の理解に合わせることができる
- ・タブレットはフラットだからいい 平らなノートも使いやすい
教科書もフラットになればいい
- ・大学に行くのも夢ではない デイジーも塾で使えればいい
- ・世の中に伝えれば希望になる
- ・個性がある これからどうしていこうか

障害理解について

私は、小さいころから読み書きが好きではありません。最初に気づいたのは、小学校一年生の時です。

一文ずつ順番に読んでいくマルまで読みは、大嫌いでした。毎回順番を数えてここだなと思う所を何回も練習して、順番を待ちました。低学年はこの方法で何とかできました。

三年生になると漢字の読みが難しくなり、友だちに漢字の読みを聞くのも大変になり、母に家で聞いて振り仮名を振ってもらいました。

もっとたいへんだったのは、読書の時間です。低学年の時は絵本を読んでいましたが、三年生になると担任の先生が文字だけの本を読みなさいと言ったのでたいへんでした。

私は、読んでいるふりをしました。適当に本を開いて、ずっとそのページを読んでいるふりをしてぼっとしていました。そうすると怒られることもなく十五分が過ぎていきました。

六年生になって、特別支援学級に入りました。そこでデイジーという教科書を知りました。デイジーは、教科書にのっている文章をタブレットで読んでくれるものです。デイジーは文章を読まなくていいので、内容に集中して聞くことができます。だから、内容がすっと頭に入りました。

デイジーで聞いて読むとよく覚えられて、紙の教科書に戻った時も、なぜかすらすら読めました。これはいい勉強法だと思いました。それから、家のパソコンやタブレットにもダウンロードして使うようになりました。

私は、この夏休みに読書に挑戦しました。「わたしはマララ」という本をデイジー図書で読みました。

「こんな便利なものがあるのか。すごいなあ。これで本が読める。よかったなあ。」と思いました。なんと読書をしたのは、小学校二年生以来です。

マララさんが銃で襲われたのは、今の私と同じ十五歳です。マララさんの育った国では、男子は学校に行けますが、女子は学校に行けません。その考えは間違っているからと、周りの人やいろいろな場所で訴え続けました。

マララさんは奇跡的な回復をとげ、ニューヨークの国連本部で演説を行いました。

「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本そして一本のペンが、世界を変えるのです。」

私は、マララさんと同じように世界の人々に訴えたいです。一冊のデイジー図書がこの夏、私の人生を変えました。デイジー図書だったらどんどん知識を得ることができます。

新聞や雑誌、私の大好きなディズニーランドのパンフレットなどがデイジー化されていればどんなにいいだろうと思いました。

そして、世の中には私のように読むことに困っている人がいることをわかってもらいたいです。